

令和4年度 第1回富山支部評議会の概要報告

開催日	令和4年7月15日(金) 13:30~15:30
会場	瑠璃の間(ボルファートとやま4階)
議題	(1) 令和3年度の決算報告について (2) 令和3年度の事業報告について (3) その他
出席者	<p>評議員</p> <p>学識経験者：中村評議員(議長)、泉評議員、稲村評議員 事業主代表：平野評議員、若林評議員、藤井評議員 被保険者代表：三浦評議員、河口評議員、川津評議員</p>
報告概要 (主な意見等)	<p>事務局より各議題について資料により説明。委員の主な意見等は以下のとおり。</p> <p>議題1. 令和3年度の決算報告について</p> <p>資料1-1 協会けんぽの2021(令和3)年度決算見込み(医療分)について 資料1-2 令和3年度全国健康保険協会(健康保険)決算報告書の概要等 資料1-3 令和3年度支部別収支(暫定版)</p> <p>(学識経験者) 富山県の被扶養者が減少しているが、この要因はなぜか。</p> <p>(事務局) 被保険者も減少しているため、適用拡大等により被扶養者から被保険者へ切り替わっているとは考えられない。したがって、被扶養者が純粋に減少していることとなる。考えられる要因とすると、一つは富山県の人口流出である。特に若い世代が県外で就職をしている傾向があり、被扶養者が県外へ転出していることが考えられる。また、高齢化も要因の一つ考えられ、75歳になると協会けんぽの被扶養者から抜け、後期高齢者医療制度へ移行する。被扶養者が減少する要因とすれば、以上のようなことが考えられる。</p> <p>(学識経験者) 若者が県外へ転出することは、県民としてあまり嬉しくないことであるが、富山県では以前からそのような傾向がある。人口構成が高齢化し、75歳以上の方が増えていることが要因なのかもしれない。</p>

(被保険者代表)

令和3年度の富山支部の収支をみると、収支差から来年度の保険料率は0.05%相当の引き下げになるということである。富山県は現在全国で二番目に保険料率が低いが、全国で最も保険料率が低くなるということはあるのか。

(事務局)

精算によって0.05%相当の引き下げの効果があるということであり、現段階で来年度の保険料率がどうなるかは分からず、今後の評議会でお示ししていく予定である。

議題2. 令和3年度の事業報告について

資料2 令和3年度富山支部事業報告書

資料3 令和3年度富山支部事業計画実施結果

資料4 令和3年度支部保険者機能強化予算の実施結果

(学識経験者)

日本年金機構回収分も含めた資格喪失後1か月以内の保険証回収率については、令和3年度の目標95.2%のところ91.7%で未達成であるため、令和4年度の目標を91.7%と下方修正している。一方で、被扶養者の特定保健指導実施率は、令和3年度の目標が20.2%のところ14.5%と未達成となっているが、令和4年度は21.0%と目標を上げている。実績を踏まえて目標を下げている項目もあれば、未達成にもかかわらず目標を上げている項目もある。その理由を教えてください。

(事務局)

資格喪失後1か月以内の保険証回収率の目標を下げた理由として、以前は日本年金機構で電子申請による資格喪失について保険証の添付が無くとも回収済みと集計されていた。しかし、令和3年2月から正当な集計方法に見直され、全国的に回収率が落ち込んでいる。そのため、目標値についても見直しが行われ、前年度の回収率91.7%以上という目標設定になっている。

特定保健指導実施率については、国の達成目標があり、その目標をもとに協会けんぽとして達成しなければいけない高い目標がある。そのため、令和3年度の実績は未達成ではあるものの、さらに一段上げて設定している。

(学識経験者)

若年層を対象としたジェネリック医薬品の使用促進の事業をしているということであるが、若年層が使っていないのは意外であった。看護協会も協力できることがあれば、協力していきたい。

(被保険者代表)

例年この事業報告を受けて、未達成項目が多いと感じている。現在未達成は6件あるが、過去から継続して未達成の項目はあるのか。例えば過去3年間において継続的に未達成のものの要因やプロセス、そのプロセスが正しいのか検証しているのか。正しければ結果もついてくるはずである。

(事務局)

今回19項目のうち6項目未達成があったが、レセプト点検の査定率、保険証の回収率、ジェネリ

ック医薬品の使用割合については、昨年度は達成していた。複数年連続未達成の項目は、被扶養者の健診受診率、特定保健指導実施率である。対象者が被扶養者であり事業所に属さないため、実績を向上させるのが難しい。そのような状況でも、毎年受けやすい環境整備、行動変容につながりやすい広報等、周知の仕方を工夫して実施してきたところであり、これからも実績向上に努力していきたい。

(学識経験者)

継続して未達成となっているのは、被扶養者の健診受診率と特定保健指導。今後は国自体の高い目標設定もあるが、支部としてここまで達成できれば成果だということを含めて、実績評価していただくといいのかなと思う。あまりにもかけ離れていると、職員のモチベーションとしてもあまりよくないと思うので考えていただけたらと思う。

(事業主代表)

協会けんぽは個々の企業に向けてアナウンスしていると思う。事業主代表として、従業員そしてその家族が健康であるためにも、健診等の受診率を上げていかなければならない。私自身も、所属する経済団体に受診率向上のための提案をしていきたい。

(事務局)

従業員が元気に働けるのは、家族が健康であることが必須である。被扶養者の健診受診率、特定保健指導実施率について、これからさらに上げていく必要がある。協会けんぽとして健康企業宣言事業を通しながら、事業所から従業員の方へアナウンスのお願いや、HPにひな型も掲載しているが社長名による被扶養者あての健診の依頼状を活用してもらえよう周知していきたい。引き続きメディア等を通して広報を行っていくほか、各経済団体の協力も得ながらやっていきたい。

(学識経験者)

企業としても、決してマイナスな話ではなくプラスの話であり、働く環境にも関係してくるところだと思う。大学で就職活動をみていると、学生たちは従来の業績に加えて、業績以外の情報も重視している。企業は健康企業宣言等をアピールしていくことが重要で、結果的に被扶養者の問題にもつながるのではないかな。

(事業主代表)

運動・睡眠習慣の改善に向けた地域偏在の周知とあるが、県西部の人のほうが県東部より有意に運動・睡眠習慣が悪いという要因はわかっているのか。

(事務局)

明確な要因は分かっていない。そのために今年度は、睡眠習慣について実態把握調査を行っており、現在のところ3万件発送し1万件を超える回答が得られた。これからその調査結果を分析していく。

また、過去に県と一緒に健診データを基に分析をしたところ、県西部ではメタボリックシンドローム該当者の比率が高いという結果も分かっている。睡眠習慣の悪化は、メタボリックシンドロームの要因にもつながるため、調査結果と併せて具体的にお示ししたいと思っている。

(事業主代表)

有意な結果が出ることを期待している。

(学識経験者)

注目を浴びるのは間違いのないことであり、本学でも富山パラドックスという問題提起もしていた。このような調査結果を、協会けんぽとしての次の取り組みにつなげていただきたい。

(学識経験者)

支部保険者機能強化予算の実施結果をみると、多くの事業をやっている、実際に私も YouTube やネット上で広告をみたことがある。ネット広告等で多くの人に見てもらえるような工夫が感じられる。支部保険者機能強化予算という各支部で自由にできる予算を使い、今後も積極的な情報提供を行っていただきたい。

(学識経験者)

6月に骨太の方針が出た中で、歯科健診の義務化も上がっていたかのように思う。先の話になるとは思うが、歯の治療に対しても何か行うという見通しはあるのか。

(事務局)

歯科健診については、まだ具体的な話は出ていない。富山支部では過去に県と歯科医師会と連携し、健康企業宣言事業所に対して無料の歯科健診を行った。参加事業所から好評であったことから、事業所のニーズは強いものと考えている。そのため、今後も歯科医師会等と連携して歯の健康についても検討していきたい。

議題3. その他

資料5 令和3年度支部保険者機能強化予算の実施結果

資料6 支部事業計画・予算策定に関する全体スケジュール（見直し後）

資料7 保険財政に関する重要指標の動向

(学識経験者)

保険料率に関する議論はいつから開始されるのか。

(事務局)

10月の評議会から、今後5年の収支見直しをお示しして、議論を始めさせていただく予定である。

以上

特記事項

次回 令和4年10月開催予定。